

同志社大学名誉学位贈呈記念講演会

21 世紀における 自由民主主義の将来

● 講 師 ●

フランシス・フクヤマ

(ジョンズ・ホプキンス大学 教授)

● 日 時 ●

2007 年 10 月 22 日 (月) 午後 2 時 30 分～4 時 30 分

● 場 所 ●

同志社大学女子大学今出川校地 栄光館ファウラーチャペル

共催：同志社大学神学部・神学研究科、アメリカ研究科、一神教学際研究センター

○お問い合わせ

同志社大学一神教学際研究センター (CISMOR)

TEL:075-251-3972 E-mail:info@cismor.jpHP: <http://www.cismor.jp/>

《プログラム》

1. 挨拶・講師紹介

森 孝一（同志社大学神学部教授・一神教学際研究センター長）

2. 講演 「21世紀における自由民主主義の将来」

フランシス・フクヤマ（ジョンズ・ホプキンス大学教授）

《講師紹介》

フランシス・フクヤマ / **Francis Fukuyama**

ハーバード大学において、政治科学で博士号を取得。現在、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院（SAIS: Paul H. Nitze School of Advanced International Studies）で国際政治経済の教授、および SAIS 国際開発プログラム長を務める。

1981年から1982年、および1989年にはアメリカ国務省の政策企画室の一員として、初の中東情勢専門職に就いた後、ヨーロッパ政治軍事局の副局長を務めた。1981年から1982年にかけて、パレスチナ自治区にある「エジプト人とイスラエル人との協議（Egyptian-Israeli talks）」のアメリカ代表団としての活動もある。


民主化や国際政治経済にかかわる諸問題を幅広く著書に取り上げており、主著として『アメリカの終わり』（*America at the Crossroads: Democracy, Power, and the Neoconservative Legacy*, 2006）、『歴史の終わり』（*The End of History and the Last Man*, 1992）、『ポストヒューマンの未来：バイオテクノロジー革命の意義』（*Our Posthuman Future: Consequences of the Biotechnology Revolution*, 2002）、『国家建設：21世紀のガバナンスと世界秩序』（*State-Building: Governance and World Order in the 21st Century*, 2004）などがある。

《フランシス・フクヤマ氏名誉学位贈呈記念講演会に寄せて》

フランシス・フクヤマ氏は現在、もっとも注目されているアメリカの政治学者の一人です。1992年に出版された『歴史の終わり』（*The End of History and the Last Man*）は広く注目され、世界的なベストセラーとなりました。フクヤマ氏は政治学者としての研究とともに、アメリカの外交政策に対しても積極的に発言を行い、影響力を発揮しています。

フランシス・フクヤマ氏の母方の家系は同志社と深い関係を持っています。フクヤマ氏の母方の祖父である河田嗣郎氏は戦前を代表する農業経済学者（京都帝国大学経済学部教授、大阪商科大学初代学長）ですが、京都帝国大学を卒業直後、徳富蘇峰の『国民新聞』で記者となりました。河田嗣郎氏の長女敏子氏がフクヤマ氏の母にあたります。敏子氏は同志社で学んだ後、第二次大戦後、湯浅八郎同志社総長の秘書となりました。敏子氏は1950年に湯浅八郎総長の推薦で、戦後最初期の女子留学生としてシカゴ大学に留学し、そこで日系二世のヨシオ・フクヤマ氏と出会い、湯浅八郎総長が仲人となって結婚をします。ヨシオ・フクヤマ氏はのちにペンシルベニア州立大学宗教社会学教授となりました。（会田弘継「フランシス・フクヤマと徳富蘇峰」『本・読書人の雑誌』、講談社、January 2007）

同志社大学では、本学とも関係の深い、世界的政治学者であるフランシス・フクヤマ氏に対して名誉文化博士の学位を贈呈し、記念講演会を開催することになりました。

 同志社大学